

一頃の「ISO ブーム」が去り、最近ではせっきくの ISO 認証を返上する組織が増えているようです。確かに建設業関連は、当時組織の規模など関係なく猫も杓子も ISO の認証取得に取り組んだ時期がありました。「ISO 取得が入札条件になる」という衝撃的なニュースが流れたのがきっかけでしたが、その後沈静化し、そこまでは求めないという結論になりました。

それにしても、せっきくの ISO 認証を返上する組織は、十分考慮した上での最終決断だったのでしょうか？ 実は ISO のメリットはたくさんあるのです。

## 1. 社内ルールの構築

ISO を導入している、いないの差は、しっかりした仕組み（ルール）があるかないかです。導入していない組織は、今までの経験やカンが頼りの仕事の進め方が大半です。よい面もあるかと思いますが、非効率な仕事のやり方を引きずっていることも多々あります。何といても「仕事の標準化」がなされていませんから社員が独自のやり方で進めてしまう可能性大です。

## 2. 客観的な証拠作り

最近の世の中は、あらゆることについて客観的な証拠を求められることが多くなりました。実は ISO の仕組みは、客観的な証拠作りそのものだともいえます。例えば何かの打ち合わせ内容を定められた議事録にしっかりと記録する、製品の検査後、その担当者や日付を明確にしておく、またプロセスの必要な箇所写真や動画をしっかりと残すなど、これらは皆あらかじめ定められた仕組みのもとで実行された結果なのです。そしてこれらの証拠があれば、何かのトラブル時に正しいことを堂々と証明できることになります。

## 3. 営業のツール

ISO を持っている、いないで第三者の見方は歴然です。今まで相手にされなかった顧客から ISO の認証を得た途端、取引可能になったという組織は数えきれません。また入札などで、ISO 認証を「加点の対象」とするところも多く、このお墨付きの効果はかなり実感できます。しかし、「ISO はお墨付き」の時代は過去のものになりつつあります。これからは ISO の認証を得ている組織なのかが問われる時代です。その意味では、自社のシステムをしっかり理解し、その成果を堂々と説明できる力が問われます。

## 4. 責任と権限の明確化

ISO を導入したことで、責任と権限が明確になったという感想を述べるところが少なくありません。導入前は、何らかの問題が発生しても、誰が責任をとりどう対応するかの決まりが明確ではなく、結局対応が遅れ顧客から信用を失ったケースがよくありました。ISO という「責任と権限」とは、単なる形式ではなく、定められた責任を確実に果たすという義務を負っています。

## 5. 内部監査・マネジメントレビューの効果

ISO を導入していない組織には、内部監査もマネジメントレビューもありません。ISO 導入組織は、この2つを通じて自ら構築し運用しているシステムを定期的にレビューすることになりますから、システムに従った実行力が問われます。一方システムの不具合も発見されることもあります。非効率なシステムを構築し社員に押しつけたのでは、ISO を導入しない方がよいと判断されてしまいます。

またマネジメントレビューは、さまざまな情報をもとに経営者自らシステムを判定することになりますから、経営者のリーダーシップが試されます。ISO のマネジメントレビューを通じて、見方が広くなったという経営者もいるようですから、ISO の効果は確実に出ています。

逆に形式的な内部監査やマネジメントレビューでは、貴重な時間の浪費となり経営に悪影響を与えかねません。

## 6. 再発防止の徹底

「再発防止が徹底できたのは ISO のおかげ」という組織が少なくありません。今までは何となく再発防止らしきものを立て実行していたものの、その効果まで確認していないという組織があまりにも多いのです。しかし ISO をきっかけに、徹底的に再発防止を追い求め、かつその効果を実感した組織が少なくないのです。今までの問題発生時に、いかに表層的でその場しのぎの再発防止策であったかを反省したといえます。

## 7. 説明力の向上

ISO の審査を通じ、「人前で説明する力がついた」という喜びを述べる組織が増えてきました。ある部門長は、審査員からの質問に対し、ホワイトボードを活用し、図解をしながら理路整然と説明したといえますから、これも ISO の効果に違いありません。昨今はさまざまな場面で、説明力を問われる機会が増えてきました。そのためにも ISO の審査の場を大いに活用したらよいかと思われれます。

# DAS ジャパン から

## 審査実施案内から ISO 審査までの流れ

審査実施案内（更新審査は 5 ヶ月前、サーベイランスは 3 ヶ月前）

- 審査日決定
- 審査チーム結成
- 最新マニュアル・資料送付を受審組織へ依頼（期限：審査日 2 週間前）
- マニュアル入手と同時に審査スケジュール作成（審査チームリーダー）
- 受審組織へ送付
- 審査スケジュール変更（組織から要求がある場合）
- ISO 審査

- (注) 1) 審査希望日の連絡が遅いと、ご希望の審査日が確保できない場合があります  
2) 審査スケジュール作成は、最新マニュアル・資料が弊機関に届いてからになります

(編集責任者 萩原由利)



英国系 ISO 認証機関 DAS ジャパン(株)  
代表取締役 萩原陸幸  
東京都豊島区東池袋 3-20-16-503  
[info@das-japan.jp](mailto:info@das-japan.jp)  
<http://www.das-japan.jp>